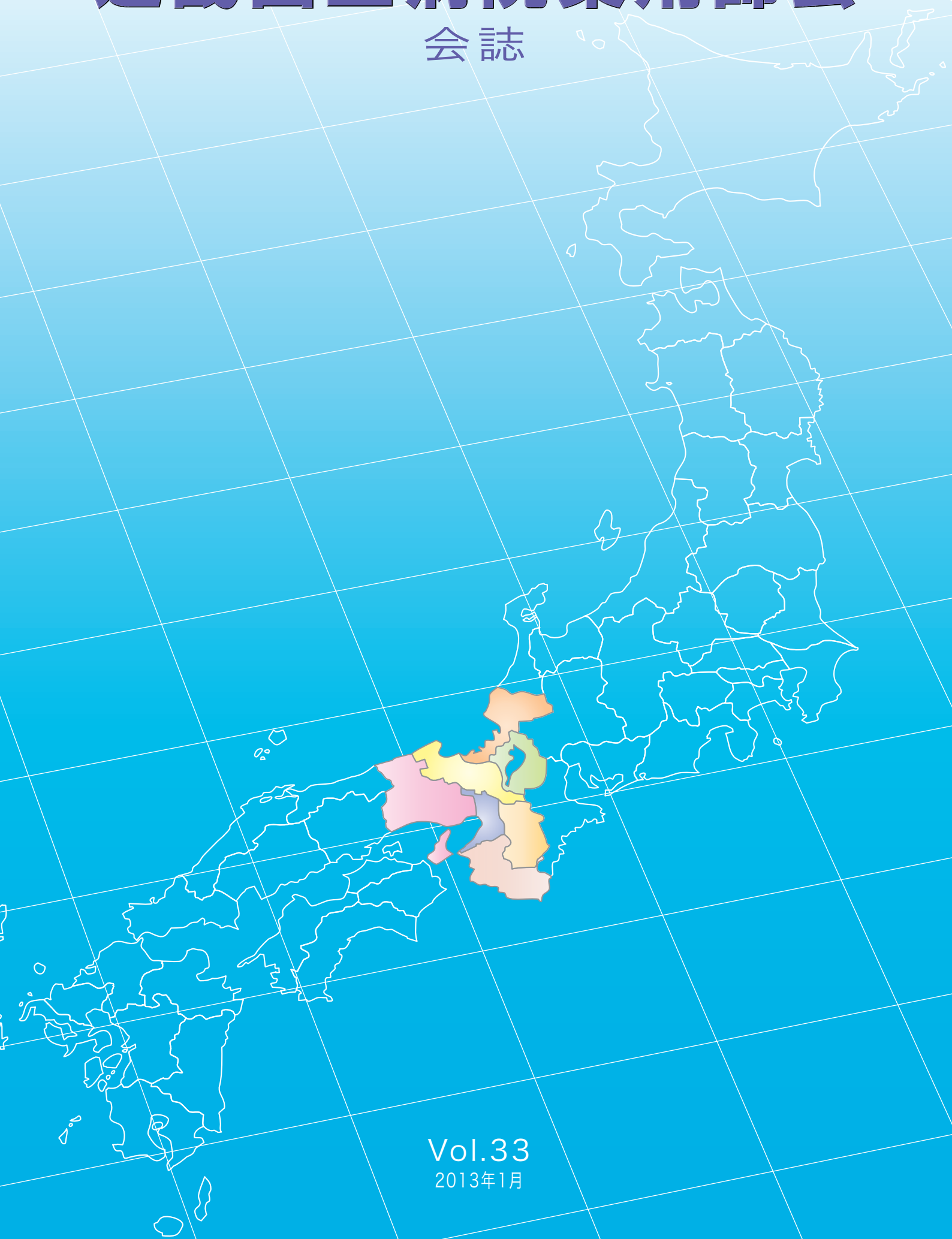


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.33
2013年1月

目 次

| | |
|------------------------------|--------|
| 会長挨拶..... | 2 |
| 近畿国立病院薬剤師会会長 | 北村 良雄 |
| 提 言..... | 3 |
| 兵庫青野原病院 | 老田 章 |
| 薬剤科紹介..... | 4 |
| 紫香楽病院 | 原 伸好 |
| 平成25年度近畿国立病院薬剤師会総会報告..... | 7 |
| 刀根山病院 | 中辻 信江 |
| 総会特別講演会報告..... | 10 |
| 刀根山病院 | 中本 有香 |
| 第 66 回国立病院総合医学会報告..... | 11 |
| 兵庫中央病院 | 松尾 友香 |
| 第 33 回日本臨床薬理学会学術総会に参加して..... | 13 |
| 姫路医療センター | 高原 由香 |
| 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の紹介..... | 15 |
| 神戸医療センター | 宮井 絢美 |
| 病院薬剤師になって..... | 16 |
| 姫路医療センター | 濱上 賀正 |
| 兵庫中央病院 | 鷲田 依美里 |
| 地区会報告..... | 18 |
| 姫路医療センター | 水谷 伸一 |
| 辻井伸行コンサート..... | 19 |
| 兵庫青野原病院 | 平松 彰 |
| 趣味のページ～寮で繋がる友人関係～..... | 21 |
| 大阪南医療センター | 常倍 翔太 |
| 編集後記..... | 22 |

会長挨拶

近畿国立病院薬剤師会会長

京都医療センター 北村 良雄

新年あけましておめでとうございます。

昨年会長に就任して以来、瞬く間の1年間でした。就任のご挨拶で、会長任期2年間で将来の組織作りの礎を築くために努力したいと述べました。前薬剤師会の下部組織であった近畿国立病院薬学集談会世代の多くが現在の理事会役員に就任し当会の運営に携わっていますが、我々も10年すればこの会から全員姿を消している事となります。そのためにも今年1年は本理事会の次世代を育成するために理事会の構成員や事業の運営方法について、各地区会からの活発な意見出しをお願いすると共に、会員の過半数を占める女性薬剤師の先生や入会後数年までの会員のご意見を積極的に取り入れ、全会員一致団結して組織運営をしていくために議論して参りたいと思います。

さて、昨年は診療報酬の改定により病院薬剤師の役割が大きく変化する重要な1年目であったと思います。薬剤師が医療安全のみならず、医療の質を上げることが認められ、ホスピタルフィーとして病棟薬剤業務実施加算が新設されたことで、多くの施設で薬剤師定数の大幅な増員が可能となり、完全病棟常駐化の基礎ができあがりました。この加算については一定の薬剤師数を有している施設でないと言定が困難であると言われていましたが、年度初めの4月から算定しているのは、全国国立病院機構では6施設で、近畿ブロックだけで4施設が届け出しました。これについては、各施設でチーム医療や医薬品の適正使用における薬剤師の重要性について院長に毎年増員要求を行ってきたことと共に、事前に近畿国立病院薬剤師部科長協議会を通じて算定要件など情報交換しながら準備を進めて来た結果だと思えます。今後はチーム医療や臨床業務において成果を出し、全国国立病院院長協議会や日本病院薬剤師会ほか、各種学会報告等各方面において薬剤師の有用性を訴えていくことで、完全常駐化が実現できるものと考えます。

このような中、病院や保険調剤薬局で薬剤師の需要が伸び、薬学6年制の新卒薬剤師数が改訂前よりも少ないなど、供給不足となり欠員を生じている施設が出ています。一方で、新卒者の募集に対して定員を大幅に上回る応募がくる病院もあり施設間格差が生じています。これは、労働環境や給与条件以外に、長期実務実習における臨床実習でどれだけ多くの知識と経験を得られたかが、学生の就職動機に大きく影響していると思えます。毎日忙しい業務の中で、多数の実習生の教育を行って頂いている先生方には多大な負担をお掛けしていると思えますが、優秀な人材獲得の不可欠な業務だと理解し、引き続き後輩を指導して頂きたいと思えます。

最後になりましたが、今年も近畿国立病院薬剤師会の将来の組織作りの礎を築くために努力して参りますので、会員の皆様にはご協力の程よろしくお願い致します。

提 言 「シックス・センス」

兵庫青野原病院 老田 章

昨年の診療報酬改定において病棟薬剤業務実施加算が新設されました。

これは病院薬剤師が、医薬品のみならず、薬物療法全般に対するこれまでの活動が評価され、期待された結果です。しかし一方ではこれらの業務が我々に課せられた責務であり、国民との契約（お約束）ということではないでしょうか。

その業務内容は、病院、病棟の特殊性や状況により、院内で協議し、アレンジされるでしょうが、医薬品適正使用やチーム医療への貢献など、その目的は同じで既に舵は切られています。また、算定の有無にかかわらず、これらの業務が病院薬剤師に期待されている事は間違いありません。病院という様々な専門職種が集団の中で、薬剤師は医薬品に関して、時として指揮者となり、燃料となり、潤滑油となり、個々の力を活かし、まわりにも見える形で確実に業務を行い、最大限医療に貢献していきましょう。

ここまでが前段で、これからが本題です。

私が十数年前に東大病院で CRC 研修していた時、東京の映画館で「シックス・センス」を観ました。ご覧になられた皆様も多いと思いますが、M・ナイト・シャマラン監督の映画で、死者が見える能力（第六感）を持った少年と彼をサポートするブルース・ウィリス扮する児童心理学者との交流を描いた映画です。

人には視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚の五感があります。第六感はそれを超える能力で直感、靈感などですが、私が大切にしたいのは「違和感」という感覚です。大辞林には、「違和感」は「しっくりしない感じ。また、ちぐはぐに思われること。」とあります。

日常生活や職場環境の中で、ふとしたことを不自然に感じたり、何か危ないなと感じ、それを回避したりすることがありますね。また、同じ状況にいても、あることに対し、何か（例えば危機感）を感じ取れる人（時）、とそうでない人がいますが、これらを感じ取れる能力は薬剤師にとっても大切だと思います。そのためには知識や経験の裏付けも必要でしょうし、感じ取れる感性を磨くことも必要でしょう。

薬局内の業務、医療安全、院内の会議、病棟でのカンファなどなど、これらが必要とされる場はたくさんあります。もちろん、違和感を感じ取ることは物事の取っ掛かりに過ぎず、その先どう考え、どう行動するかが大切です。医薬品の専門家として薬剤師の感性を如何なく発揮できる職場であるべきだと思います。

薬劑科紹介

独立行政法人 国立病院機構 紫香楽病院



【環境】

当院は、滋賀県南部の、京都府と三重県に隣接する四方を山で囲まれた甲賀市信楽町にあります。たぬきの置物が有名で、長い歴史を持ち日本六古窯に数えられる信楽焼の産地です。また、信楽は、1200年以上前の奈良時代に聖武天皇が紫香楽宮（しがらきぐう）を造営し都が置かれたところで、当院の名称もこれに由来します。

すぐそばに新名神高速道路の信楽インターチェンジがあり、大津方面、三重方面からのアクセスが良好です。また、JR草津線貴生川駅より信楽駅を結ぶ信楽高原鉄道があり、途中駅の紫香楽宮跡駅が最寄り駅です。

多くの緑に囲まれており、療養に最適の環境にあります。

【概要】

病床数180床（一般病棟100床、重症心身障害者病棟80床）。標榜診療科は、内科、神経内科、呼吸器科、循環器科、リウマチ科、小児科、整形外科です。療養が主体となる疾患を診療の対象とし、重症心身障害者医療、神経難病医療、地域医療を主に取り組んでおり、1日平均患者数は、平成23年度では外来67.5人、入院161.9人でした。

【薬剤科】

スタッフは、科長、主任1名、常勤薬剤師2名の合計4名で構成されています。平成24年度の薬剤科目標として「薬剤管理指導業務の維持・質の向上を図る」「院内における医療安全へ貢献出来るシステムの構築」「教育・研修の充実」「臨床研究の実施に向けた活動の開始」を掲げ、病院経営への貢献や医療安全対策への関与など、モチベーションを高く保ち、意欲を持って、少人数ではありますが、チームワーク良く仕事に励んでいます。

【調剤業務】

当院では、門前薬局が無く、信楽町内でも調剤薬局はわずか3店舗しかないため、(院外処方箋発行率が約3%)、ほぼ全ての外来患者に対して、外来調剤業務を行っています。また申し出があれば、外来患者には、お薬手帳を発行する等、その普及に取り組んでいます。

入院調剤については、定期内服処方箋・臨時内服処方箋とも一包化調剤を行っており、重症心身障害者病棟では、錠剤の粉碎指示の処方箋も多数あります。平成23年7月の医事会計システムの変更に伴い、薬剤科の調剤システムもほとんど更新され、現在では最大限利用することで調剤過誤防止に努めています。

注射薬調剤については、病棟での薬剤に関するインシデント軽減のため、看護科からの要望で平成24年2月より「一日分セット渡し」を実施しています。

入院処方箋に関しては、本年3月に新病棟が完成し、その時にオーダーリングシステムを導入する予定です。

【薬剤管理指導業務】

当院は4病棟(全病棟)すべてが障害者施設等入院基本料(10:1)を算定しているため、病棟薬剤業務実施加算対象外の病棟ですが、重症心身障害者病棟を除く2病棟で薬剤管理指導業務を行っています。使用薬の説明、服薬状況の確認、副作用チェック、持参薬チェックなど、効果的で安全な薬物療法が出来るよう支援を行うとともに業務のボトムアップを図っています。(2012年11月は134件)

【無菌製剤調製業務】

当院で使用する全ての高カロリー輸液について、無菌調製を実施しています。

(2012年11月は115件)

【チーム医療参加】

薬剤科では、主任が部門のリスクマネジメントメンバーとして、医療安全管理室会に参加し、医療安全管理の院内の関連部門と連携協力して、医療安全に取り組んでいます。他に、クリニカルパス委員会、褥瘡委員会に積極的に参画しています。

【薬学部6年制学生の実務実習受け入れ】

2012年度第1期には、1名の実習生を受け入れました。

(文責 原 伸好)



平成25年度近畿国立病院薬剤師会総会報告

刀根山病院 中辻 信江

平成25年度近畿国立病院薬剤師会総会が平成25年1月12日（土）KKR ホテル大阪にて開催された。

総会に先立ち、平成24年度の各委員会合同会議（教育研修委員会・業務検討委員会）が行われた。

小林副会長の開会の辞により総会が開始となり、北村会長から御挨拶、引き続いて山崎薬事専門職より御挨拶を頂いた。



北村会長

議長には兵庫中央病院石正副薬剤科長が選出され、24年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。

続いて25年度事業計画案、予算案について審議され全て承認された。その後、部会紹介と活動報告が行われ、最後に和田副会長の閉会の辞により無事、総会が終了した。

今回より総会時間の短縮に努めた結果、15時から15時50分までに終了した。

日時：平成25年1月12日（土）

場所：KKR ホテル大阪

担当施設：刀根山病院

出席者数：出席者153名、委任者93名

会則第12条に従い、会員過半数出席により総会
が成立

司会：小林副会長（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）

開会の辞：小林副会長（近畿中央胸部疾患センター 薬剤科長）

議長：石正副薬剤科長（兵庫中央病院 副薬剤科長）

閉会の辞：和田副会長（神戸医療センター 薬剤科長）



会場の様子

報告および審議事項

I. 報告事項

(1) 平成24年度事業報告

①総務

平成24年度年間活動報告について山内総務担当理事（大阪医療センター）より報告があった。

②広報

広報担当会議、会誌の発行、ホームページの運用とメンテナンス、会員名簿と委員

会メーリングリストのメンテナンスについて廣畑広報担当理事（大阪医療センター）より報告があった。

③地区会報告

各地区理事より活動報告があった。

- ・京都北部、福井地区 上野地区理事（福井病院）
- ・京都南部、滋賀地区 坂本地区理事（宇多野病院）
- ・兵庫南部地区 水谷地区理事（姫路医療センター）
- ・大阪北部、兵庫東部地区 木村地区理事（循環器病研究センター）
- ・大阪南部地区 政道地区理事（大阪南医療センター）
- ・奈良地区 松本地区理事（奈良医療センター）
- ・和歌山地区 宮地地区理事（南和歌山医療センター）

④近畿国立病院薬剤部科長協議会

平成24年度事業について北村会長（京都医療センター）より中間報告があった。

（2）平成24年度会計報告

上野経理担当理事（京都医療センター）より平成24年度会計報告があった。

（3）平成24年度会計監査

中多監査役（刀根山病院）より平成24年12月25日に平成24年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

II. 審議事項

（1）平成25年度事業計画

①総務

平成25年度事業年間計画について山内総務担当理事より説明があった。

②広報

名簿・緊急連絡網、会誌、ホームページ、担当分担について廣畑広報担当理事より説明があった。

③各委員会

平成25年度の事業年間計画について、教育研修委員会は岡田委員長（南和歌山医療センター）より、業務検討委員会は砂金委員長（和歌山病院）よりそれぞれ説明があった。

（2）平成25年度予算案

上野経理担当理事（京都医療センター）より平成25年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

その他

部会の各代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。

新年互礼会

従来開催されていた意見交換会は、新年互例会と位置づけて開催された。
参加人数は、109名と盛大に行われた。

総会特別講演会報告

刀根山病院 中本 有香

演題：薬剤師をめぐる最近の話題

日時：平成25年1月12日（土）16：00～17：30

講師：一般社団法人 日本病院薬剤師会 副会長 土屋 文人先生

薬剤師の職能も大きく拡大し、薬剤師の活躍する場も広範囲にわたるようになり、患者の薬物治療における有効性の担保と安全性の確保、特に副作用・薬害防止における責任はますます重大になっています。今回土屋先生のご講演では、診療報酬改定をふまえ、「薬剤管理指導業務」と「病棟薬剤業務」の区別について解説していただき、病院薬剤師業務のあり方について考えさせられる内容でした。

平成24年度診療報酬改定で、入院基本料の加算として病棟薬剤業務実施加算が新設されました。これはチーム医療において薬剤の専門である薬剤師が主体的に薬物療法に参加し、薬物治療の有効性、安全性の向上に資する業務が評価されてのことでした。チーム医療を推進するためには、薬剤師を病棟に専任配置し、これまで以上に積極的に患者の薬物治療に関わることが求められているのだということがわかりました。

医薬品をめぐる事故防止対策では、実際に薬剤師をめぐる損害賠償請求事件をもとに、お話しいただきました。オーダーリングシステムを信頼し、医師に対する疑義照会義務を怠ったことに過失が認められた事例であり、薬剤師に求められる薬物治療に関わる責任は、ますます大きくなってきているのだということが理解できました。また、情報システムなしで病院薬剤師業務を行う事が難しいなか、それについて正しい知識を持つことは、自己防衛のみならず、医療安全、チーム医療等を推進する上で極めて重要であることを認識しました。

これからの病院薬剤師に求められていることを理解するためには、病棟薬剤業務実施加算の取得の有無を問わず、充実した病棟業務を行うことが必要であると思いました。また、薬剤師業務の目的（医薬品適正使用の確保）及び、チーム医療における薬剤師の存在意義（物から考える）を再認識する良い機会となりました。



土屋文人先生

第 66 回国立病院総合医学会報告

兵庫中央病院 松尾 友香

平成 24 年 11 月 16 日（金）～17 日（土）に神戸市の神戸国際会議場・神戸国際展示場で第 66 回国立病院総合医学会が開催されました。今回、私は参加及びポスター発表の機会がありましたので、報告いたします。

地元近畿で開催された今回は『国立医療～未来と希望のきずな～』をテーマに掲げ、職種、ブロックを超えた様々な発表やシンポジウムなどが企画されていました。特別講演では『少子高齢化と未来の医療ーとくに先制医療を中心に』と題し井村裕夫先生が、『人生は 8 合目からがおもしろい』と題し田部井淳子氏が講演されました。また、市民公開講座には俳優の石田純一氏が登場し、会場を盛り上げてくださいました。口演 458 題、ポスター発表 1931 題を含む一般演題においては日本医療の現状を踏まえ、今後目指すべきものや国立病院機構として取り組むべきものについて、様々な職種からの目線で発表され、活発に議論されていました。私自身は病院全職種が対象となるような大きな学会への参加は初めてであり、普段の業務からは考えたこともないような視点からの研究発表を見ることができた大変有意義な 2 日間でした。

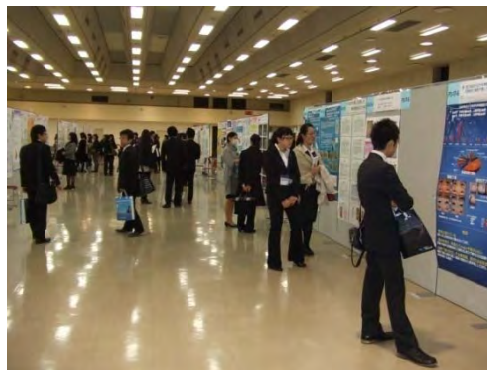
私は『Cetuximab により infusion reaction を起こした後、Panitumumab に変更し化学療法が継続できた一症例』という演題でポスター発表をさせていただきました。初の学会発表では知識不足・準備不足を痛感したと同時に、限られた枠内での構成の仕方や表現方法など学ぶところはとても多く、貴重な経験をさせていただいたと感じております。新たな目標も見つけることができましたので、今後は自己研鑽を積み、常に目標を持って日々の業務に取り組みたいです。

また今回は当院が副担当施設であり、学会運営スタッフとしても参加させていただきました。約 1 年半前より通常業務と並行して、大阪医療センター、近畿ブロック事務所、兵庫中央病院のコアメンバーにより、講演やシンポジウムの企画などを検討し、計 16 回の会議をもって当日までの準備を整えられました。発表や聴講だけでは知ることができなかった裏側を見たことで、学会成功のために会場内外で多数のスタッフが運営を支えていることを改めて実感いたしました。

今秋 1 番の冷え込みとなった 1 日目は晴天に恵まれましたが、学会 2 日目はあいにくの雨……。しかし、参加人数は一般参加者、招待者、学生、スタッフを含め、8220 人の過去最大規模となり、大盛況のもと第 66 回国立病院総合医学会は幕を閉じました。

次回は金沢での開催です。今後も発表を目標に、積極的に学会に参加していきたいです。

学会発表の機会を与えていただいたこと、ご鞭撻いただいた先生方に深く感謝いたします。



会場の様子





第 33 回日本臨床薬理学会学術総会に参加して

姫路医療センター 高原 由香

「臨床薬理学は、適切な薬剤を適切に使用することで患者によりよい予後を提供するためのヒトでの薬理学をベースにした臨床医学である」(会長講演より)

平成 24 年 11 月 29 日 (木) から 12 月 1 日 (土) まで、沖縄コンベンションセンターで開催された第 33 回日本臨床薬理学会学術総会を聴講したので、以下に報告させていただきます。

沖縄コンベンションセンター



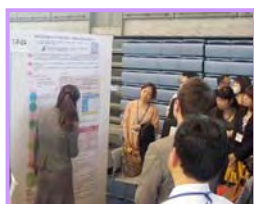
現在、私は CRC としてまた薬剤師として病棟常駐業務も兼任しています。今回は、その双方の視点を持って、聴講することができました。今学会のテーマは、「医療としての臨床薬理学 ～集団と個の薬物医療～」です。臨床研究を行うのに必要な臨床研究デザインや統計解析の基礎を身に付けるための臨床研究ワークショップ、英国薬理学会との Joint Symposium にアジアの臨床試験を推進するための Asian Clinical Trial Update などいろいろな企画がありました。まず、CRC の視点から、わたしが興味を持ち聴講したのは、「臨床試験の倫理：ダブルスタンダードの解消」と「国際的に認められる早期臨床試験」の話題です。POC 試験など早期臨床試験に携わる機会はなかなかありませんが、グローバル化が急速に進んでいる今、CRC としては当然知っておかなければならない内容なので、貴重な情報収集の場でした。現在の日本の臨床研究は、治験だけが GCP 遵守とされ、治験以外の臨床試験はその他の臨床研究とともに一括されており、別の倫理基準で審査し実施されるというダブルスタンダードの複雑な現状です。当センターも治験は GCP のもとで支援・実施体制を整備していますが、その他の臨床研究については、事務局を含め体制整備はまだまだ不十分であり、今後の大きな課題です。わたしが聴講したシンポジウムでは、日本の研究調査結果の信頼性を確保するために、ダブルスタンダードの解消が一刻も早く望まれるという日本の研究倫理審査を含む臨床研究についての議論などが行われていました。また、平成 25 年度の倫理指針の改正にあたっては、臨床試験の倫理基準を整理統合し、指針間の関係の見直しが検討されているとのことでした。

もうひとつの視点、病棟薬剤師として目にとまったのは、「薬学的管理が必要な個別化医療」という言葉でした。当センターでは、病棟常駐業務を昨年 6 月から実施しており、個々の患者における薬物治療の効果や副作用をモニタリング・評価し、積極的に処方提案につなげ、フィジカルアセスメントも実施しています。今学会の発表の中にも、薬剤師が医師とともに臨床研究を行い、個別化薬物治療における遺伝子解析及び TDM の応用、経口分子標的治療薬の個別化治療、抗血栓薬の個別化治療、重篤な有害事象回避のための個別化医

療などさまざまな発表がありました。わたしは、脳神経外科病棟を担当しているため、抗血栓薬の個別化治療、特にワルファリンと新規経口抗凝固薬の選択についてのワークショップが大変参考になる内容であり、凝固能モニタリングやそれに伴う用量調節が不要の新規抗凝固薬の適正使用など、病棟業務を行うにあたって、薬剤師としてしなければならないことがたくさん見えた有意義な時間でした。

CRC と病棟薬剤師を兼任すると、創薬と育薬の両方に存分に携わることができることが、わたし自身、大きなメリットだと感じています。双方の視点をもつと製造販売後調査にも大きな興味をもつことが出来ます。今学会の中でも、「製造販売後の薬剤の有効性と安全性をどう評価するか」といった内容のシンポジウムや発表は数多くありました。

薬剤選択や治療法が正しいということは、承認のための治験だけでは証明できず、製造販売後のさまざまな臨床研究が必要です。まだまだ、CRC としても薬剤師としても未熟なわたしですが、今学会に参加することで、CRC として質の高い臨床研究を実施できるよう支援し、病棟薬剤師として、製造販売後の安全性・有効性の評価を医師とともに行っていきたいと、改めて思い直しました。近畿の国立病院機構からは、4 施設の CRC によるポスター発表がありました。



大阪医療センター ポスター発表

最後に、沖縄の気温は 25℃前後と暑く、まだまだ半袖で過ごせる気候でした。

日中は学会で勉強し、夜は沖縄料理に三線ライブを楽しみ、歌って踊る、そして、あるどこかの先生方はステージにあがり笑顔でハイサイおじさんを・・・♪

個人情報保護のため、写真は小さめに掲載させていただきます (笑)。



妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の紹介

神戸医療センター 宮井 絢美

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師の認定は、平成 21 年度より開始され、平成 24 年 10 月末現在、認定者は 69 名になる。この認定取得後に「妊婦・授乳婦専門薬剤師」へステップアップしていく方式になる。

一般の薬物療法と違って患者本人のほかに母体に投与した薬物が胎児、哺乳児へ移行するため、胎児毒性や発育毒性、そして催奇形性といったリスクを考慮しなければならない。認定の背景には、このような妊婦・授乳婦への薬物療法の特殊性の下に、倫理的、科学的に妥当な判断ができる薬剤師が求められていることにある。

認定申請要件として、講習会の履修（20 時間 10 単位）、研修施設でカウンセリング技術や情報評価スキルの確認などを行う実技研修（40 時間以上）が必要になる。研修施設は全国で指定された約 4 施設（主に国立成育医療センター、聖路加病院、虎ノ門病院、もう 1 施設は年により異なる）に限られており、平日の月曜日～金曜日の 5 日間出張し参加する。講習会では、妊娠、出産の基礎知識や新生児の生理学的特徴をはじめ、様々な合併症妊娠と薬物療法、薬の影響に関する情報源とその読み方を知っていく。

研修施設でのカウンセリング実習では、経験豊富な薬剤師が模擬妊婦になりロールプレーを多数経験し、妊婦へ薬剤による奇形発生率増加のリスクなどを説明するといったリスクコミュニケーションに慣れていく。また、薬物の有効性と安全性の根拠となる情報源が極めて少ないという妊婦・授乳婦の薬物療法の問題に対応できるように、コホートスタディから生殖試験まで可能な限り収集したデータから正しいエビデンスを選択し、情報が真かを評価するスキルを身につけていく。認定後は、医師から信頼を得て、チーム医療を推進するために、新たに情報を収集し積み上げていく能力とリスク評価する能力を、自ら向上させなければならない。

日々の業務の中でも、妊婦・授乳婦が薬について相談したいというニーズは高く、添付文書の制約的なアドバイスでは、そのニーズに応えられないケースを多々経験し、次世代の健康を支援する専門性をもった薬剤師の果たす役割は大きいと考える。

近畿地区においても平成 24 年度に関西・妊産婦薬物療法支援研究会が発足され、様々な場所で働く薬剤師がこの分野に関わりその連携が広がっている。

今後より良い妊娠授乳と薬に関する情報源が確立することを期待し、一人ひとりの不安を解消し、適切な治療のもと妊娠継続、出産、母乳育児へ向かってもらうこと、そして未来ある子供の命を優しく守っていきたいと考える。

この分野を目指す方がいらしたら、是非一緒に頑張っていきたいと思います。

病院薬剤師になって

姫路医療センター 濱上 賀正

私は今年度から姫路医療センターで病院薬剤師として勤務しています。勤務当初は、わからない事ばかりで覚えることがたくさんあり、この先やっていけるか不安で仕方ありませんでしたが、業務をこなしている内に一日一日が過ぎていき、気が付けばあっという間に9ヶ月間が経っていました。

私は、もともと医療や薬剤を通じて人の役に立ちたい、人とのつながりを持ちたい、と思い薬剤師を志望しました。6年間薬学部で学んでみて、医療における薬の役割は幅広く、薬物の使い方により治療効果に大きな影響を与えることを知りました（良い意味でも、悪い意味でも）。薬物を適正に使用するために、医療従事者の中心となって薬剤師の職能を大いに発揮できる場所の一つとして病院があると、大学5年次での長期実務実習での経験を通して感じ、病院薬剤師を目指そうと思いました。

実際に9ヶ月間働いて感じたことは、教科書で学んだ紙の上の知識だけではなく、現場における生きた知識の重要性や知識を活かした判断力を身につけなければならない、という事です。もちろん国家試験等で勉強した知識は重要であり、より多くの知識を持っているに越したことはないと思います。しかし、テストなどとは違い現場では正解のない問題に出くわす事が多々あります。そのような問題は、教科書に載っている知識だけでは解決できない事が多く、知識とそれらを活かす判断力が求められている様に感じています。これらは一朝一夕では身につかないものであり、日々の積み重ね即ち経験からくるものだと思います。一日一日をなんとなく過ごすのではなく、しっかりと充実させ、経験を積み重ねていきたいです。

これからは、まず診療科にとらわれない幅広い知識を身につけ、先輩方のように信頼される薬剤師になれるよう励んでいきたいと思っています。そして将来的には、専門的分野で活躍できるようになりたいと考えています。また薬剤師だけではなく、医師・看護師・メディカル・MR・卸などの方々との“相互作用”により相乗効果が生まれて、より良い医療を提供できると感じていますので、知識だけではなくコミュニケーション能力や人間力も鍛えていきたいと考えています。そして、医療従事者の中心となって薬物の適正使用を行える薬剤師になっていきたいです。まだまだ未熟な私ですが、どうぞご指導のほどよろしくお願い致します。

病院薬剤師になって

兵庫中央病院 鷺田 依美里

今春、兵庫中央病院に採用され、はや半年が経ちました。入職した頃は、右も左も分からず、先生方に教えてもらいながら何とかやっているという状況でしたが、最近は半年経ったということでだいぶ慣れてきました。それでもやはり知識が乏しいため、苦勞することが多々あります。

私が病院薬剤師を目指したきっかけは、長期実務実習を通してです。実習先の薬剤師さんは、患者さんや他の医療スタッフ等いろいろな人からの相談にのり、なおかつ薬剤師の観点からこうしたほうが良いということを提案し、患者さんが良くなっていく姿をみて、私もそんな風になれたらと思ったからです。しかし、今の私はそのような存在には程遠く、調べたり、分からなければ教えてもらったりの毎日です。学生時代学んだことだけでは現場では全く通用しないので、それを土台にして、日々勉強をし、知識をつけていけるよう取り組んでいます。

現在、私は調剤業務と薬剤管理指導業務等を中心に、日々業務を行っています。中でも一番大変なことがやはり薬剤管理指導業務です。患者さんの話を聞くだけで、指導がなかなかできず、他のスタッフに情報を伝えるだけになりがち但也有ありますが、薬剤師としてこうしたほうが良いという意見を言えるよう、一つ一つ調べて身につけていくよう心がけています。また副作用か否かの判断に頭を悩ませることが多いです。例えばかゆみの訴えがあった場合、それは薬剤による副作用なのか、乾燥が原因なのか、衣類があたることによるものなのか、もともとかゆくなりやすい体質の方なのか、様々な原因が考えられ判断が難しいです。お薬の説明書に副作用を記載すると、患者さんは副作用が出ている気がして訴えられることがよくありますので、必要最低限のことを記載するよう心がけています。

患者さんにとってよりよい医療を提供するには、他職種の方々との協力が大切ということを感じています。今は先生方に相談にのってもらいながら日々取り組んでいます。来年には後輩も入ってきますし、早く一人前になれるように頑張っていきたいと思っています。

兵庫南部地区会報告

開催日時：平成24年11月29日（木）19：30～21：30

開催場所：明石市

参加人数：姫路医療（12名） 神戸医療（5名） 兵庫青野原（3名）

合計20名（会員31名）

参加率 64.5%

内 容

1. 平成24年度 第22回日本医療薬学会年会、第66回国立病院総合医学会
会員報告 姫路医療（5題）、神戸（2題）、兵庫青野原（1題）

（報告順報告者敬称略）

- ① 新しい抗てんかん薬（イーケプラ錠®）の解析評価 【国病：岸本】
- ② 姫路医療センターでの病棟常駐業務について（第1報）
～スキルアップのための薬剤師教育の取り組み～ 【国病：川戸】
- ③ 姫路医療センターでの病棟常駐業務について（第4報）
－姫路医療センターにおける医薬品情報の共有化について－ 【医療薬学：川戸】
- ④ 姫路医療センターでの病棟常駐業務について（第2報）
～効率的な病棟薬剤業務へ向けた取り組み～ 【医療薬学：坂倉】
- ⑤ 姫路医療センターでの病棟常駐業務について（第5報）
－医薬品情報提供に向けての取り組み－ 【医療薬学：壺阪】
- ⑥ 抗HIV療法後のCD4陽性リンパ球数と栄養指標との関係について 【医療薬学：竹松】
- ⑦ 進行再発大腸癌患者の生存期間と投薬の関係 【医療薬学：續木】
- ⑧ 神戸医療センターにおけるメトグルコ錠 250mg®の使用実態調査
～ハイリスク患者への適正使用に向けて～ 【国病：白川代和田】

2. 親睦会（意見交換会）

文責：水谷伸一

辻井伸行コンサート

兵庫青野原病院 平松 彰

私はクラシック音楽が好きで、楽器なら伴奏の基本であるピアノです。マラソンに伴走者がいるように、無伴奏でもない限り、弦楽でも声楽でもピアノ伴奏がありますし、単独でも連弾でも演奏できるからです。したがって、好きな作曲家は（一昨々年が生誕200年の）ショパンで、最も好きな曲が「ワルツ第一番変ホ長調 作品18」です。強弱があり、全体的には三拍子の落ち着いたテンポが最後には一転して速くなるからです。この曲名を聞いただけでメロディーが浮かぶなら相当な実力です。別名「華麗なる大円舞曲」。二十年ほど前に「ハウス・ザ・カーリー」のCMで中村紘子さん（「ショパン」なら日本ではこの方の右に出る者はいません）が演奏していた曲です。

ところで、先生方は「辻井伸行」という人物をご存じですか？あるいは名前に聞き覚えはありませんか？産婦人科医を父に、フリーアナウンサーを母に持つピアニストです。私が彼を知ったのは今から八年前の2005（平成17）年。放送二年目の「報道ステーション」でした。生まれながらに視力を持たない全盲ピアニストとして。当時17才の彼はスタジオにて生演奏を披露しましたが、その腕前に舌を巻きました。同時に「将来、押しも押されぬピアニストになるに違いない」と、予感よりもむしろ確信めいたものを感じました。

それから四年後の2009（平成21）年。独断と偏見ですが、わが国におけるこの年の「マンオブザイヤー」は彼だと私は思っています。なぜなら、6月にアメリカで開催された「バン・クライバーン国際ピアノコンクール」で日本人初の優勝を遂げたからです。全盲のピアニストが頂点を極めたことに対し、欧米人からも絶賛の嵐でした。当然ながら、以降の彼のコンサートチケットはプラチナと化し、極めて入手困難になりましたが、やっとのことで大阪はザ・シンフォニーホールにて昨年の師走に開催のチケットを入手できました。ザ・シンフォニーホールはABC（朝日放送）の創立30周年記念事業の一環として建設され、最大の特徴が「残響2秒」！これについては世界的に有名な指揮者の故ヘルベルト・フォン・カラヤンが（元日に開催のウィーン・フィルのニューイヤーコンサートで有名な）「ウィーン楽友協会大ホールに比肩する」と絶賛したのです。昨年10月14日に開館30周年を迎えましたが、その記念コンサートでした。「シンフォニア会員」の私は会員優先電話予約で入手できましたが、それでも彼のコンサートチケット入手に三年もの歳月を要しました。

当日は前半がドビュッシー4曲、20分の休憩を挟み、後半がショパン4曲（ちなみに、休憩明けが「華麗なる大円舞曲」）で、アンコールはショパン2曲とオリジナル2曲で4曲もあり、計12曲。あっという間の2時間半でした。ザ・シンフォニーホールへは少なくとも年に4回、平均すれば四半期に一度は訪れていますが、この日は普段のコンサートと

様相が異なっていました。ザ・シンフォニーホールの客席をご存じの先生方ならおわかりですが、時にしか開放されないバックステージ（パイプオルガンの前）をはじめ、両サイドは三階席まで、正面は二階席まで、いずれもぎっしり満員。一階席は立ち見も多数いました。また、コンサート開始以降にホールへ遅れてやって来る人は誰もおらず、演奏の途中である程度の間があっても曲の終わりと勘違いして拍手する人もいなく、聴衆のレベルの高さを感じさせられた他、すすり泣きの声があちこちから聞こえ、ハンカチで目頭を覆う人を何人も見かけました。普段ならクラシック音楽を文字通り「音を楽しむ」つもりで気軽に聴くのですが、この日ばかりは課題がありました。それは「盲目にもかかわらず鍵盤をどうやって間違えずに叩くのか、これだけ聴衆を魅了する彼の魅力は一体どこにあるのか」です。「これについての答えが見つければ、いや見つけて帰りたい」との思いで臨みました。前者ですが、演奏前に客席へお辞儀する際には左手でピアノの右端を持っており、そこから鍵盤の位置がわかるのでは、と思えました。後者ですが、一般的に考えれば「盲目」というハンディを背負うと悲観的に人生を捉えても仕方ありませんが、彼の場合は人生の途中でなく始まりから盲目であるため、すなわち盲目がいわば当たり前であるため、マイナスとは捉えていないのです。盲目とわかってすぐに出会ったピアノに懸命に打ち込み、大好きなショパンをはじめとする難しい曲を弾きこなすプラスの姿勢、謙虚で誠実な人柄が人の心を動かす、と思うのです。エンディング挨拶が「大阪は先の日曜に『一万人の第九』で訪れたばかりですが、たこ焼きやお好み焼きなど、おいしい食べものが多いことが音楽よりも印象に残っています。今日はこんな私のために大勢お集まり下さり恐縮です。」でしたが、この言葉からも伺えます。課題の答えが見つかったか否かは別とし、少なくとも足がかりは得られたと思っています。

このコンサートは12月8日に開催されました。歴史的には太平洋戦争開戦日、ジョン・レノンの命日として知られていますが、私にはこれが新たな記念となりました。正直、隣の鍵盤に触れるミスタッチが全12曲中で数か所ありましたが、考えてもみて下さい。全くのブラインドタッチで一つのミスもなく弾くのが至難の業であることを！完璧と言っても過言でない、と私は思っています。チケットは今後も極めて入手困難な状況でしょうが、機会があればもう一度、いや何度でも聴きたいと思わせる彼のコンサートでした。



趣味のページ ～寮で繋がる友人関係～

大阪南医療センター 常倍 翔太



大阪南医療センターの常倍^{つおます}です。今回、やまと精神医療センターの黒田先生からバトンをいただきましたので、栄えある第2回を担当させていただきます。

趣味といいましても、寝ることと酒を飲むことくらいですので、年末に同じ寮の仲間達とスノーボードに行ってきた話をさせていただきます。

私は病院寮に下宿しております。寮には、薬剤師の他に、医師、看護師、事務員、放射線技師等様々な職種の方が住んでいます。週末の夜は寮の仲間達と飲み明かすのが習慣となっております。

仕事納めをした後、岐阜の高鷲スノーパークを目指し夜中から車を走らせ、到着したのは朝6時。少し仮眠を取って、朝一番のゲレンデに乗り込みました。気温は少し暖かく、空は雲一つない快晴、最高のコンディションでした。

ゲレンデについたらやっぱり最初はビールで乾杯。運転手の熱い視線を受け流し、空っぽの胃に入るビールはこの上ない至福の時間です。

真っ白なゲレンデで風を切り、時に転んで笑いながら今季初ボードを楽しみました。

そして、お腹ペコペコで楽しみのお昼ご飯はやっぱりカレーとビール。最高です。



そのあとも散々楽しんだ後は、宿に帰り宴会です。ご飯は地元名物の鶏ちゃん、ビールとの相性は抜群。疲れた体に染み渡ります。

飲みっぱなしの楽しいスノーボー旅行でした。肝臓は悲鳴を上げておりますが、職種の垣根を超えて、いつも楽しく笑いあい、悩みを話したり出来る友人がいることは寮で暮らす特権だと感じます。本年も共に働く仲間達と頑張りたいと思います。

それでは、次は紫香楽病院の藤井大和くんにおバトンをお願いしたいと思います。

